2020年8月1日発行（毎月1回1日発行）（75巻8号）ISSN 0035-7774

労働の科学

Digest of Science of Labour

2020 August 8
Vol.75, No.8

特集 新型コロナウイルスと新しい労働生活(1)
人間工学の寄与

新型コロナウイルスの危機に人間工学ができること―エグゼクヴェンティブ・エルゴノミクス／下平義弘
在宅ワーク・在宅学習で実践できる7つの人間工学ヒント／松田文子
コロナ危機対応で広がる人間工学の応用と工夫―労働生活を支える多様な事例／八木佳子
With/After コロナにおける教育現場の課題／加藤麻樹
地域の中小企業によるコロナ対策ものづくりとその支援／松岡敏生
ウィズ・コロナ時代のリーダーシップ：9つのアクション／庄司直人
「ものづくり」の力で地域に貢献を―従業員の感染症対策とともに／市川慎次郎

巻頭言
実践科学として社会に貢献する人間工学
吉武良治

連載
凡夫の安全衛生記㊹
福成雄三

日本労働科学学会創設の意義と労働科学の課題
坂本恒夫

大原記念労働科学研究所

Digest of Science of Labour

労働の科学

2020 August 8
Vol.75, No.8

巻頭言　俯瞰（ふかん）

実践科学として社会に貢献する人間工学 …… 1
吉武 良治［芝浦工業大学デザイン工学部 教授］

作品　Between Sky and Earth：髙見晴惠
素材　綿布
1997年7月25日～8月17日
オーヴェルガーデン・コペンハーゲン／デンマーク
Overgaden・Copenhagen
撮影　ベント　リベルグ
表紙デザイン：大西 文子

特集　新型コロナウイルスと新しい労働生活（1）
人間工学の寄与

新型コロナウイルスの危機に人間工学ができること
エグゼクヴェンティブ・エルゴノミクス
……［千葉大学大学院工学研究院人間生活工学研究室］下村 義弘 ……4

在宅ワーク・在宅学習で実践できる７つの人間工学ヒント
……［大原記念労働科学研究所］松田 文子……10

コロナ危機対応で広がる人間工学の応用と工夫
労働生活を支える多様な事例
……［株式会社イトーキ 商品開発本部ソリューション開発部］八木 佳子 ……16

With/Afterコロナにおける教育現場の課題
……［早稲田大学人間科学学術院］加藤 麻樹 ……20

地域の中小企業によるコロナ対策ものづくりとその支援
……［三重県工業研究所プロジェクト研究課］松岡 敏生 ……24

ウィズ・コロナ時代のリーダーシップ：９つのアクション
……［朝日大学保健医療学部健康スポーツ科学科］庄司 直人 ……28

「ものづくり」の力で地域に貢献を
従業員の感染症対策とともに
……［株式会社横引シャッター 代表取締役］市川 慎次郎 ……32

実践科学として社会に貢献する人間工学

吉武 良治

よしたけ りょうじ
芝浦工業大学デザイン工学部 教授
一般社団法人日本人間工学会 理事長
認定人間工学専門家
主な著書
・『初めて学ぶ人間工学』（共著）理工図書、２０１６年.
・『デザイン人間工学の基本』（共著）武蔵野美術大学出版局、２０１５年.
・『産業安全保健ハンドブック』（共著）労働科学研究所、２０１３年.

２０２０年、世界は新型コロナウイルス感染症によって未曾有の危機に直面しています。医療分野をはじめとするあらゆる領域において、人類は叡智を集結してこの苦難を乗り越えるべく協力しています。そして人間工学の領域においてもさまざまな貢献が見られます。しかし、その具体的な活動や成果はなかなか知られておらず、よい知見や情報が埋もれていることが多いです。本号の特集によって人間工学領域における知見や活動を多くの方に知っていただき、活用いただくこと、そして関係者で事例を共有できることはとてもよい機会になると思います。

人間工学は、英語ではErgonomicsまたはHuman Factorsと呼ばれ、働きやすい職場や生活しやすい環境を実現し、安全で使いやすい道具や機械をつくること、さらに持続可能社会へ貢献するシステムやサービスを構築すること、そして人々をウェルビーイングへ導くことに役立つ実践的な科学技術です。これら人間工学の活動は、各種企業や団体、組織、そして人々の生活の中で行われていますが、ここでは一般社団法人日本人間工学会関連の主要な活動を中心に紹介します。

コロナ禍の生活において最も大きな変化のひとつは在宅ワーク／在宅学習の増加でしょう。これまでもテレワーク／モバイルワークやテレビ会議等は行われていましたが、４月の緊急事態宣言下ではほぼすべての方がパソコンやスマートフォンなどの情報機器を利用した遠隔での仕事や学習、サービスの活用を体験されたと思います。そして何らかの身体的な不調、精神的な不安等を体感されたのではないでしょうか。通勤や通学といった移動がなく、仕事や学習ができるといったメリットもありましたが、慣れない機器／アプリケーションの使用や時間管理しづらい環境、生活リズムの乱れ等によって体調不良の訴えが急増しました。日本人間工学会ではコロナ禍における各種機関の対応状況や実態把握の調査を実施するとともに、在宅ワーク等で役立つ具体的なガイドを作成し、無償で公開しました。詳細は本特集の「７つの人間工学ガイド」にて紹介がありますが、特筆すべきことは、国際人間工学連合（IEA）と連携して、英語、日本語だけでなく、各国語に翻訳し、多くの国々にて活用していただいている点です。タイムリーに広く社会に貢献している好事例といえます。

人間工学は上記のように直面している問題解決に大きく貢献できますが、よりよい生活づくりや新しい課題に対する取り組みにも寄与します。Post COVID-19社会における新たな日常に対する提案や提言、そして具体的なモノづくり、コトづくりの活動に貢献しています。これからの大切な視点として、直面している問題を解決するだけでなく、本質的に必要なことを見極めて活動することが求められます。今年の緊急事態宣言下、コロナ禍では、これまで行っていた仕事や授業（教育）を代替する方法を中心に検討していましたが、重要なのはそもそもその仕事や授業はどのように取り組むのがよいか、別の手段はないかを検討し、その種類や目標によって適切な方法を選択することです。このパンデミックを新しい働き方や生活様式を取り入れていくよい機会ととらえ、人間工学専門家や人間工学に関わっている方々のリードによってよりよい働き方や生活スタイルを推進していくことが人間工学の役割と考えています。